

強力推進を申し合せ

旧年末二度の事件は西銘地区三百世帯の心を根底からゆすぶつた事でした。しかしこれについては、問題として考える点は数多くあると存じますが根底には御互の生活への反省が必要であると考えられます。私共互人会はこの点に關し、お互反省の会を持ちまして色々話合つた事でしたが、これを一つの契機として新しく新生活運動を行う以外に方法はないとの結論を見出しお互実践致すことを誓合いました。

力のみでは到底達成し得ない運動です。地区民一体となつて行う時初めてその成果が挙ると存じます。申合せになつた事項は次の通りです。

なにとぞ趣旨に御賛同の上、村民皆様方の御支授御協力を切に御願ひ申し上げ

一 冠婚葬祭の簡素化
1 神祭の酒宴は廢して訪問は仕合はない。
親類その他をお招きする場合でも血鉢は五鉢以下とする。

2 建築 普請等の拂却限の他のものなしは最少限度に制限し宿元の負担のかゝらないようにする。

3 葬式その他これに準ずる行事のお祭はこれに準ずる行事のお祭はこれに準ずるに
行ひ酒肴その他は簡素に取行ふ。
その場合の参列者は長居をしない。

4 婚礼は簡素に取行ひ公民館結婚の方向へ向うよう努力する。

5 正月の年始廻りは廢し公民館のあらゑは公民館に於て若者の男女を問はずに於て年若の挨拶をする

部落衛生組合

部落衛生組合が続々誕生
 部 落 衛 生 組 合 が 続 々 誕 生
 していることはお互いが病
 気にかゝらぬための対策と
 してまことによろこばしい

ことであり今度は粟生部落
 で第四番目の結成を見た。

次はどの部落で囀々の声を
 挙げるか厚生課では結成の

1、舟戸	土村 正行
2、大久保	桑名啓三郎
3、枯谷	西山 良教
4、粟生	西村 二郎



村民の皆
様に、謹ん
で着任のご
あいさつを
申し上げます。

御承知のように「健康は
幸福の源泉である」と云わ
れていますが、個人的にも
家庭的にも、また、社会的
にもすべて健康が土台とな
って私達の生活が営まれて
おり、ひいては、それが平
和的な文化国家建設の道に
なっていることと思いたす
例えば、結核患者の八割が
無自覚性であり、しかも伝
染性の国民病であることを
どうして解決したらよいか
また、山間部特有の栄養
陥や、寄生虫保有率が高
いこと（腹の虫が多いこと）
等の問題点は、どこに
因がありどのようにすれ
ば改善できるか。更にはえ
ん病を駆除するにはどのよ

着任のごあいさつ

ましたが、そのうち最初の一年間には保健所勤務、以後本郷においては、四年間を結核予防行政、三年間を母子保健衛生事業と、もつぱら衛生行政に従事して参りましたが、地域社会の健康福祉向上に必要な公衆衛生生活動は、すべて保健所を基盤として展開されている、わが国の実状からみて、私が多年念願しております才一練への進出の機会が与えられ、このたび印縁があつ

つながつていたのであります。この意味におきまして「健康は自分達の手で守る」ということを、再認識していただき、ぜひ御当地においても自主的、かつ民主的な公衆衛生地域組織の活動を強力に展開していただくことを希望する次第であります。

勿論、自分の健康は、それぞれ自分の責任で処理さ

にすれば一番効果的か等個人の力だけではなかなか解決できない諸問題が皆方の周囲に山積している、これと思われまますが、これが直接、間接に家庭や部

いはたまた、村ぐるみに与えている影響ははかりしれないほどの点に深く思ひこ

めぐらしていただき、サレて部落ごとにも公衆衛

阿形栄一

大王橋落成

二 日常生活
1 家への訪問者にて酒を出さず御茶にする。
2 麦打その他の人夫、並に人夫交換(いゝ)の場合

空に飛行機飛び、海に船陸に電車や汽車にバス、近くは人工衛星空を飛び文明開化の世の中に時代の流れに取り残されたこと大王土

部落の成落

部落は山麓に土讃線走り、対岸には国道三十二号線が南北に縦貫して純農の地である。此地に包蔵される農

に非常な不便を痛感いたし部落民はその都度、対岸を眺めては、その不遇に涙をのんでいた。

時代の進展と共に大豊村が発足するに至り、その建設計画の一端として、大王橋架設が認められて、暗黒の部落民に一棟の光明を得、これを早期実現に不断の努力を傾注して参りましたが幸にして村費補助金百万円の交付を受け昭和三十一年一月二十八日、植村建設が着工、同五月十九日竣工、

大豊村米麦多收穫競技会

一位に森下龍平氏

反收……………4石3斗

念品を贈つた。尚参加者に
員に、もれなく記念品が
られた。成績は別表の通

入賞者調査成績表

順位	部落名	氏名	反石 容量	品 種	草丈 cm	桿長 cm	穂長 cm	(坪当)風乾		坪当 玄米重 kg	粗スリ 歩合 %
								生藁重 kg	精粗重 kg		
1	磯谷	森下龍平	4,300	新金南風	105.0	74.5	19.0	2,000	674	573	86.0
2	三津野	西村綾太郎	4,252	花明山	123.1	97.0	20.2	2,100	679	567	83.4
3	三津野	西村憲太郎	3,855	花明山	120.0	88.2	21.3	2,000	622	514	82.6
4	穴内一區	佐々木昭夫	3,742	黄金波	117.0	97.3	20.5	1,715	605	499	82.4
5	小川	佐々木孝三	3,712	豊林22号	123.2	101.0	20.0	1,870	601	495	82.3
6	小川	西山登美男	3,700	八州千本	95.4	71.6	19.7	1,200	595	494	83.2
7	小川	西山善三	3,652	高木峯風	122.0	97.4	20.6	1,490	594	487	82.0
8	小川	西山善三	3,592	高木峯風	104.0	73.2	17.2	1,460	570	479	84.0
9	小川	吉村孝吉	3,540	豊林22号	123.0	112.0	20.2	1,700	563	472	83.8
10	小川	吉村孝吉	3,502	豊林22号	123.0	99.0	20.4	1,640	570	467	82.0
11	穴内一區	佐々木孝吉	3,490	金南風	97.0	71.4	19.4	1,650	563	462	82.0
12	東	佐々木盛明	3,490	金南風	97.0	71.4	19.4	1,650	563	462	82.0
13	増殖	東	3,180	豊林22号	122.0	102.8	20.2	1,680	518	—	—
14	賞	東	3,180	豊林22号	126.6	97.2	22.0	1,700	462	—	—
15	角	谷茂	2,800	金錦	105.2	84.2	21.0	1,100	456	—	—
16	佐	谷山	2,780	金錦	123.2	101.2	20.8	1,760	454	—	—
17	砂	谷山	2,740	金錦	135.8	104.0	21.0	1,420	446	—	—

陸、海、空採用試驗公告

でも酒は出さない。
辨當持参とする。その場
合僱主に於て賃金の考慮
をする。

三 密造酒を根絶する。

延長七二米、中員二米、總
工費百六十五万円、附帶工
事道路延長二〇〇米、中員
二米、部落出入役五百三十
九人役、文字通り莫大な巨
費を投じ本流域屈指の近代
的美觀の吊橋が見事に架設
されました。

去る一月二十五日、村当
局、村議會、各關係者多数
参列のもとに盛大なる落成
式を挙行いたしました。

此の綽架架設にあたり
しは、村当局、村議會各
關係者各階級の皆様方の絶大
なる御協力御支援の賜と部
落民一同感謝致しております。
失礼乍ら紙上より厚く御
礼申し上げます。

あらゆる困難を克服した
部落民各位も感無量と思は
れる。

終りに常に部落民の先頭
に立ち日夜涙ぐまじき御努
力をされた部落長の佐竹屋
氏の功績がでありますした
事（附言致します）

（大工上 小笠原博三）

昭和32年度大豊村麦多收穫競技会成績表

順位	部 落	氏 名	收量(石)	品 種
1	穴内一区	秋山 稔	4.57	香川稗5号
2	"	佐々木悦男	3.72	えびす小麦
3	大 平	都築 一敏	3.52	改 良 稗
4	"	松本契姿美	3.47	大石49号
5	"	都築 茂	3.46	香 川 稗
6	磯 谷	森下 龍平	3.27	四国稗1号
7	穴内一区	松岡 雪男	3.24	大石49号
8	永 淵	北村 弘亀	3.12	えびす小麦
9	川 戸	西村 四郎	3.11	小麦農林20号
10	永 淵	北村 恒博	3.10	えびす小麦
11	大 平	都築 勝	3.05	香 川 稗
12	穴内一区	松岡 高俊	2.97	日 本 一
13	"	佐々木泉夫	2.95	香川稗1号
14	上 桃 原	上村 憲正	2.87	黒 潮
15	穴内一区	佐々木住男	2.83	香川稗5号

順位	部 落	氏 名	反收(石)	品 種
1	磯谷	森下龍平	4.300	新南風
2	三津子	西村鍬太郎	4.252	金明山
3	区内	上佐意太郎	3.855	花明波
4	穴内	木々木昭夫	3.742	黄金
5	小川	佐々木龜美	3.712	農林
6	小津	西山登三	3.700	高洲
7	小東	西村善三	3.652	高南
8	穴内	小川村	3.592	金農
9	東小	佐々木	3.540	金農
10	穴内	原川	3.502	金風
11	東小	小川	3.490	金風
12	穴内	小盛男	3.44	若葉
13	佐賀	小盛男	3.42	農林
14	区内	小笠原	3.42	高農
15	穴内	佐々木	3.40	高農
16	三津	上村福正	3.34	農林
17	東穴	千頭	3.18	農林
18	穴内	佐々木	3.17	農林
19	東穴	西山	3.16	農林
20	穴内	佐々木	3.13	農林
21	西穴	谷美雪	3.12	黄農
22	穴内	松岡	3.11	黄農
23	東佐	今井	3.10	若葉
24	西	山中	3.08	若葉

市身登太吉男	清幸盛和慶文	蘇村谷村岡原	近北三上笠小豆	川淵淵原戸	八永永桃川	郎重輔龜重喜 太守啓君守晴	村村村村谷	北北北北上三	淵淵淵淵原光	永永永永上西	永永永永上西
--------	--------	--------	---------	-------	-------	------------------	-------	--------	--------	--------	--------

次男 孝昭 信重	榮名 上村 杉本 西岡	谷原 川峯	東上 桃八	水重 守精 古繁 信世	三谷 北藤 近谷 三谷	山淵 川西 西谷	賀永 八西	佐永 八西	吉香 梅憲 秀喜 正	高中 山三 豐永 谷	松山 三谷	川野 山三 豐永 谷	西立 佐西 永	健行 憲正 義明 則豐	山中 村吉 西村 西	川原 谷土 居砂 子	西上 桃東 西	參加者
----------------	----------------------	----------	----------	----------------------	----------------------	----------------	----------	----------	---------------------	---------------------	----------	---------------------	---------------	----------------------	---------------------	---------------------	---------------	-----

優良分團を表彰

Figure 1

6

14

「これが多い春先きの火災事故を防止大切な身体や財産を守る為火の用心を心を期して呼び事故防止の万全を期したいと思っております。」

三十二年九月現在

昭和三十三年九月十五日現在調整の基本選挙人名簿登録人員数は同年十二月二十日左表の通り確定した

計	天坪	大 杉	西 豐 永	東豐永
	二二 一〇	一一一三二一一 九八七六五四三二一〇	九八七六五四	第一 三二 投票區
五、九二五六、一七三二、〇九八	三二 四一 〇八	一一一三二一一五 六六一〇一九〇〇七〇 五四七三一五五三〇〇	六二五三一 八九七二七八 〇八三〇一六	一二八 九八二 四九三
	三二 八一 六一	一一一三二四一二一五 六六〇〇〇二〇一五二 八七七四五三四五九七	七二五二一 七五九四九八 二九四二〇五	一二八 九八六 二六七
	七四 三二 六九	一、 一三二二四八二四三〇 三三二〇一〇一二二 三一四七六八九八七	一、 一四五〇五三 五五六六六七 二七七二一	一、 三五六 八七九 六五〇

上村儀治（下桃原）

生徒を收容した。当時の豊永地方には西豊永方面に国道が通ずるはか今の杉久保線の一部が郡道として新設されたばかりの石原道で汽車や自動車の運行など夢にも思われず、電話、電灯、ラジオなどの文明の利器も

併校舎を新設

去る昭和二十七年は先生逝つて三十三回忌に當るのてその命日である一月十日に同志である永森重珍、釣井龍哉、渡辺契沙治、桑名忠太郎、豊隆隆美、上村敦三、三谷兵武、尾立伝、大利富重、松浦都知恵、大利朋得、小笠原利治、上村儀治等十三名が浜改田の先生の墓前に参拝し御遺族であ

校、高等学校、大学校に進む者も多数となつた。

中でも岡上守道君は帝大で卒業、黒田礼二のニツクネームで知られる通り露、独に多年駐在し朝日新聞の特派員として活躍せられ、後退いて戦時中ポルネオ開拓に赴任の船中遂に不届の客となつた。三谷仁恵君は京大卒業後台湾で辯護士開業

し日を追憶し先覚者の御遺業と各先生方の御遺徳を追懷して記す。

尚本年も一月十日定福寺に参集の折、岡上吏恵先生（女先生として広瀬先生の部下で守道君の御母堂）並びに岡上守道君の墓前に参拝した、法令執行後親睦会を開き故人などの話に時の移るも知らず夕刻会した。

大王下海外移住研究会長 美濃英由

生れた家で育つて先祖の考えたような事を考え、先祖のやつてきたようなことを續けていたら、村民の皆様の生活はどうかなるでしょうか。

神武天皇から二、六〇〇有余年たつて一農家平均一町歩の耕地と、一家族平均七人の人々とをもつては、農家も喰つて行けなくなり日本の国全体としても行き詰り、どうにもすることができず、ちり貧となり、米国の犬になるか、それともソ連の奴隷になるかの外はなくなるでしょう。

村民の皆様は今こそ一大奮發をし、特に青年たちは一大転換をして、祖先の考えたことより一歩進んだ考え方をし祖先のやつて来たことより百歩進んだことをするより外に生きて行く途はないのではないのでしょうか。

それならどうすればよいか？

新天地即ち海外移住である。

祖先伝来の方式で仕事をしていては経済的に満足の生活は仲々むづかしいと思います。前にも述べた通り

一戸平均一町歩の耕地は世界第一の小百姓であります。中小商工業と云う問題は世界の強国では日本丈にある問題です。国会で、どんな法律を作つても、根本的な救済は出来ないと思ひます。

明治以来百年の歴史がこれを証明しています。祖先の知らなかつた方式で活動することであります。

その結果が如何であるかは明治から海外移住者が実証してくれてあります。布哇北米、メキシコ、南米等の國々で日本人の移住者たち

どうか大豊の皆様、深く御研究を重ねられて海外移住を断行しようではありませんか。

私の部落では只今左記のような組織をつくり鋭意研究中であります。なにとぞ御指導の程、願ひます。

〔大王下海外移住研究会〕

〔副会長〕 美濃英由

部長、稲田穂積

〔協力委員〕 佐々木義朝、

美濃栄美、原重幸、小笠原義雄、小笠原影行、小笠原利広。